

私の会社人生現役時代にいた二人の上司の姿から今も学ぶ。

✓1^(前)私を鍛えてくれたA上司

仙台の本店（本社）勤務時代のこと、終業時刻 17 時 20 分直前のやりとり。「^(上司)大沼ちょっと来い」「はい」「^(上司)地球は丸いというのが証明して来い、A 3 版用紙 1 枚の表裏に纏めて来い、期限は 2 日後の朝だ。」「はい、分かりました。」与えられたテーマ（宿題）は会社業務とは全く関係ないもの^{N o n}だ、もちろんすべき業務は山ほどある、だから終業時刻後、または休日に調べる他はない。私の知識外でとっかかりが浮かんで来ない、会社内の図書館か、仙台市立図書館か、本屋に行く他はない、四苦八苦する。ところが、その夜、本来業務の残業を終え、その宿題に向かおうとする 22 時頃、その上司から電話が来るのである、「大沼、国分町のこの店に飲み来い。」というので、酒飲みを始める。そして、2 日後に「大沼、あの宿題終わったか？」と呼び付けられるのである。このような類似の宿題を時々授かったが、私だけではなかった。問題はこれをどのように受け止めるのかということである。加えて私のデスクの向かいにいた指導員たる B 先輩からも沢山の宿題を頂戴した。A 上司も B さんも、私をいじめようとしているのではない、**要は挑戦意欲やフロンティア精神の有りや否や（頑張り度）を観察しているのだ**。今で言えば、体の良いいじめ？・パワハラ？だ。しかし、私はそれに立ち向かう気持ちが燃えたものだ、同僚も同様であった。

✓2^(後)対してノータリン上司

子会社に出向した時代のこと、本体親会社から退職出向していたある取締役は 1 日中デスクに座り、新聞・雑誌・インターネットで日暮しだった。自分の部門に係る経営理念や中長期経営計画を自ら策定することが出来なかった――全体最適の視点、全方位視点を踏まえ、論理的・体系的に自分の考え方を文字に起こせなかった。私が敬慕・私淑する安岡^{まさひろ}正篤先生が提唱し、当時ビジネス界においては定番の「長期的思考、根本的思考、多面的思考」の視点がまったくなかった。^{した}下^ばっ端の私が敢えて書かせた内容は幼稚で目を当てられなかったから私が作成した。国内超有名大学を卒業（北海道大学大学院修士課程修了）し、学歴偏重主義の親会社ではとんとんと出世したもの、口先と指先だけで人を動かし、実務は全部を部下に指示し、させたものだから、そのような環境を離れたら何一つ出来なかったということなのだ。その方とは下部機関を含めて 4 回目の職場だったが、内心ではすっかり軽蔑していた。しかし、この人は高額の収入を得ていた、収入とは国民みなさんが支払った金から搾取していたのだ。

言うまでも無く両者は対極にある、前者に鍛えられた部下は幸せ者、後者に巡り^あ遭った不幸者となる。

定年退職後地域コミュニティにおいて様々な活動を通し、色んな人物像を見て来たが、とにかく高学歴が故に「口先と指先だけ」は研ぎ澄ました風であるものの実務に疎い、知行合一が当たり前でない、文献知を振り回し、ましてや三現智（三現主義+知行合一）で組織を動かさない頭でっかちの何と多いことかとしっかり観察している、そういう人は話しても面白みがない、安っぽい。私が魅力を感じ敬意を表するのは、4 年制大学の高学歴を踏んだ以上は、先頭に立つ者は当たり前、組織に係る「長期的思考、根本的思考、多面的思考」の視点で体系的に、かつ、文書に素晴らしい内容に自らが書き留めることが出来る人である。私がいいたくなるのは私に夢と向上心を刺激する人物である。難しいことを言うのではない、だって、その「口先と指先だけ」を文字にすればいいだけだ、それを勉強して来たはず、それでも出来ないということは、自分が、自分には能力がないとレッテルを自分に貼ったのだ、情けないではないか。

(end)